

## 「災害ボランティアを知ろう」を開催しました！

東日本大震災から2年。災害時にはボランティアの活動が大変大きな力になることは、皆さんご存知のとおりです。ボランティア活動は、まず身を守ることから。自分と家族、身近な人を守ることが、地域を守ることに繋がります。3月16日(土)、「災害ボランティアを知ろう」～災害ボランティアの基本～を開催し、災害ボランティアの基本的な心構えを学びました。

### 災害ボランティアに関する講話

東日本大震災から2年が経過しましたが、被災地では今なお復旧・復興のために様々な方々が活動しています。講座では、まず羽村市の職員による被災地での支援活動体験談を聞いていただいた後、災害救援ボランティア推進委員会主任・宮崎さんから、「災害ボランティアの基本」について学びました。

また後半の「グループワーク」では、参加者の意見交換を織り交ぜながら「災害時の決断力とコミュニケーション」のポイントを解説していただきました。



講師：宮崎賢哉さん  
(災害救援ボランティア推進委員会主任・社会福祉士)

### 災害ボランティアの基本

#### 災害ボランティアとは？

災害ボランティアは風邪をひいてから必要になる風邪薬と一緒に、予防するも

のではないが用意はできる。  
・誰かのお膳立てで活動するだけでは自分の身の回りに起きた時には役に立たず、事前に色々なことを自分で調べ、学んでおくことが大切。

・被災された方に向き合う心構えとして、①自己責任・自己完結が原則②自分の判断を押し付けない③自分の経験や考えを振りかざさない④私たちの言う「被災地」は現地の人にとっては「故郷・わが町」、「がれき」は「帰るべき我が家」、「ゴミ」は「かけがえないもの」等々。

・ボランティア活動の中で最も大切な事は「被災された方の目線で考える」ことなのです。大切な家族を失った人が本当に望んでいるものは何か？「食料や毛布がほしい」ではなく、「もう一度家族に会いたい、生き返らせてほしい」ではないか。しかしこれを災害ボランティアに対して口にする人は少ない。災害ボランティアはこうした目に見えない心を理解した上で、自分に何ができるのかを考え、

行動しなければならない。

### 「グループワーク」

グループワークでは阪神・淡路大震災で災害対策にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された「クロスロード」というカードゲームを使用しました。参加者には災害時の悪環境・悪条件で意思決定しなければならぬ事を理解していただき、異なる立場の当事者が互いの価値観の違いに気付き、乗り越え、前に進む過程を体験してもらいました。

「クロスロード」の例を紹介いたします。

#### 例えば・・・

##### ○あなたは母親

「大震災後、小学校へ行ってもらうわが子を迎えに行くと、途中で生き埋めになっている人を発見。子どもも気になるが他に人はいない。あなたならどうしますか？」  
↓YES (助ける) かNO (わが子優先)

##### ○あなたは被災者

「自宅は半壊、家族そろって避難所へ、日頃の備えのお陰で非常持ち出し袋に

水も食料も3日分はある」  
しかし避難所では水も食料もない家族が多数。その前で非常持ち出し袋を開ける？  
↓YES (あける) かNO (あけない)



クロスロードを使用したグループワークの様子

##### ○あなたは受験生

「避難所では人手が足りず、若くて体力もある自分は重宝がられ感謝されている。しかしこのままでは自分の勉強ができず、合格は危うい。避難所の手伝いをやめて勉強に専念する？」  
↓YES (勉強に専念) かNO (手伝いを続ける)

いずれもスパッと判断するには難しい問題です。

##### 「災害時の決断力とコミュニケーション」

日頃できることでも、いざという時にはなかなかできないもの。普段から何ができるのか、何をしておくか